

第 77 回級段位審査会 認定者名簿と総評

総 評 《 主人公は「受審者」 》

第77回級段位審査会が無事終了したことを感謝申し上げます。

審査会の初めに、リズムック・カンフーのイベントはそのほとんどが、
そこで何かを学び、蓄えるという形で、それは「INPUT(吸収する)の場」。
それに対して審査会は「OUTPUT(発揮する)の場」。
という話をしました。

さてでは、そこで何を発揮するのでしょうか？

受審後、「あそこであんな失敗をしてしまった」、「上がっちゃって・・・」という話は良く聞きます。しかし、それは大した問題ではありません(少なくともRKの審査会では)。そもそもそこで失敗しようが、うまく行こうが、全体を通してみれば、その人の力というのは、普段とさほど大きく変わるものではありません。ですから技術的に見れば失敗した、上手く出来た、というのは気にしてもあまり意味のないことです。もしそこに何か影響があるとすれば、それは、「どういう気持ちで今回の審査会に臨んでいるか？演技をしているか？」という心の持ち方、心の姿勢なのではないかと思います。

いつものレッスン以上に集中力が高まるこういう場であればこそ、一層際立って来る受審者一人一人の意志や心の状態が、今回は特に目を引きました。

途中で間違いに気づいて緊張感が一瞬途切れるのはやむを得ないとして、それを引きづってしまう人。

「あ、そうだった。」とすぐ切り替えて淡々と演技を続ける人。

普段自分の教室ではやっていない「桃源郷・調息法」に挑戦して、一人でそれを、まったく一つのカウントの間違いもなく、まっすぐ前に気持ちを集中し切って最後まで堂々とやった人。

後で担当する指導員から聞いた話ですが、選択した演舞を、自分が憧れている大先輩と二人でできたことがすごくうれしかった、という声。

普段は見たことがないようなのびのびとした演技に僕が、

「いつも教室で見ると、全然動きが違って見えたけど、普段と何か変わった？」

と聞くと、

「お正月早々大変なことが二つも重なって起きて、多くの人たちが大変な状況になっている。そのニュースを見るにつけ、そんな中で、自分は何事もない環境の中で、こうして年末に立てた予定をそのままに、好きなことをしていただける。ほんとにありがたいことだと思いながら、審査に臨みました。」

という答えが返ってきました。

リズムック・カンフーは、そういう一つ一つを大切にしていきたい、と願っています。